

1 訪問日程及び訪問先

平成24年8月31日（金）～9月4日（火）

中国吉林省（長春市、延吉市、琿春市）中国北京市、韓国ソウル市

※詳細は、「5 日程表」のとおり

2 調査箇所

【8月31日（金）】

・吉林省人民代表大会

【9月1日（土）】

・石田商事現地法人アンテナショップ（延辺大山商貿有限公司）

・神楽拉麵屋

【9月2日（日）】

・長嶺子（中国・ロシア国境）、圈河（中国・北朝鮮国境）

・延吉・図們江地区国際投資貿易博覧会

・延辺朝鮮族自治州政府外事弁公室

【9月3日（月）】

・自治体国際化協会北京事務所

・国連連開発計画署図們江地域開発事務局

【9月4日（火）】

・自治体国際化協会ソウル事務所

※ 詳細は「5 日程表」のとおり

3 訪問団メンバー

団 長 齊木 正一 議員

副団長 内田 博長 議員

秘書長 浜崎 晋一 議員

団 員 内田 隆嗣 議員

<随行> 議会事務局 総務課 係長 田辺 正博

調査課 係長 五百川 和久

文化観光局 交流推進課 国際交流員 張 恩花（中国）

4 所感及び県政に対する提言

鳥取県は吉林省と平成6年9月に「友好交流に関する覚書」に調印し、青少年、文化、経済、環境などの分野で交流を推進している。最近報道では、中国経済の成長スピードは鈍化してきているとのことだが、地方では今なお発展途上の段階にあるように感じられ、潜在力は高いと考えられる。このような状況の中で、様々な交流のチャンネルを維持していることは重要であり、交流開始後、本年で18年目を迎えた両地域の更なる交流のためには、今あるチャンネルを活かし、それをどのように発展、深化させていくかを検討すべき段階であるとする。

まず、議会間の人的交流について述べたい。

本県議会団の訪問は、外交上の問題により日中関係が複雑になりつつある時期にもかかわらず、吉林省人民代表大会の李副秘書長より、日中国交正常化40周年という節目、そして収穫の季節である秋に訪問したことへの謝辞とともに、これまで両地域が培ってきた幅広い交流とその成果に触れられ、今後も引き続き両地域の友好関係を築いていくために、議会関係者同士で更に努力していかなければならないとの発言があった。その後、両地域の今後の交流について忌憚のない意見交換を行うこともでき、これまで培ってきた人的繋がりによる絆の強さを感じることができた。

次に、今回訪れた吉林省の省都である長春市、延辺朝鮮族自治州の州都である延吉市の状況、本県進出企業の状況について述べたい。

長春市は、近年極めて高い経済成長率を維持しており、市内環状道路や高層マンション建設が行われるなど、その様子を肌で感じる事ができた。また、過去の訪問時に比べて市内を走る自動車の台数が格段に増加し、交通渋滞が各所で発生していた。長春市には、国有の自動車会社である中国第一汽車集団公司があり、自動車関連日系企業やその他の企業も進出している。近年、日本人の長期滞在者も増加していることから、日本との航空路線による直行便運行や日本食レストランが以前に比べ増えていた。

延吉市は、吉林省延辺朝鮮族自治州の州都である。自治州は、1952年9月に創立され、今年が60年目の記念すべき年であった、中国の56ある民族の中で朝鮮族が多く居住し、市内各種看板は、中国語と韓国語が併記されており、日常生活では2か国語が使われていた。

訪問期間中は、創立60周年を祝う式典や商談会が開催され、延吉市内をはじめ自治州内の街や幹線道路に祝賀の電飾が施されるなど、普段よりも賑やかたことだった。

延吉市では、本県進出企業の店舗や飲食店を訪問したが、店舗は繁華街、飲食店は地元大学の近隣という地の利を活かして営業されており、徐々にリピーターが増えてきているとのことであった。

中国の主要都市には、日本食レストランも増えてきており、日本食が浸透しつつあるようだが、地方都市においては、未だ途上の感もあることから、日本食の持つ安全・安心で高品質という利点を生かし、県内産品を中国の主要都市だけでなく、地方都市にも売り込むことを検討することも大切である。

次に、本県と中国吉林省との物流について述べたい。

吉林省は、ロシア及び北朝鮮と国境を接しており、今回訪れた琿春市はウラジオストクまで約170キロメートル、ザルビノまで約70キロメートルの距離にあり、ロシア側国境の長嶺子では、1日あたり約700人から1000人のロシア人が貿易や観光目的で往来するなど、吉林省とのロシア沿海地方との貿易・観光の玄関口となっている。

本県境港とロシアのウラジオストクは、平成21年6月から定期貨客船のDBSクルーズフェリー航路が開設されている。現地で伺った話では、県内企業が延吉市内で開催された「第8回延吉・図們江地区国際投資貿易博覧会商談会」の出展品を本航路にて輸送されたが、ロシア・

中国両国の通関手続きに時間を要し、開催直前になって商品が到着したとのことだった。

現地の通関手続は、今後、輸入事例が多くなることで時間短縮に繋がる可能性もあるとのことだが、現時点では中国大連港を利用した方が、コストが安いとのことだった。

今後、県内企業だけでなく県外企業へも中国東北部への輸送手段の一つとして、DBSクルーズフェリーを活用するためには、現地の通関手続きの迅速化による時間短縮を図ることは重要であると感じた。これには、これまで培ってきた地方政府間の人的繋がりを活かし、必要に応じて中央政府に協同で働きかけるなどにより、両地域間の問題解決を図ることも検討する余地があると考えている。また、併せて輸送コストの低減のためにも、引続き新規利用者を粘り強く開拓していく必要もある。

次に、中国、ロシア、北朝鮮の3国が国境を接する図們江地域について述べたい。

この地域は、北京市にある連合国開発計画署図們江地域開発事務局により広域図們江開発計画が進められており、事務局から、現在実施している物流・交通研究プロジェクトについて、現段階の調査状況の説明を受けた。

それによれば、環日本海地域は潜在力があるものの、物流量・インフラ・各国家の体制や制度の違いによる課題があるとのことだった。

また、特に強調されたのは日本の正式参加による図們江地域の開発に向けた積極的な関わりであり、国だけでなく地方政府も深く関わることが北東アジア地域の発展のために必要であるとのことであり、今後、開発が進む可能性のある図們江地域の計画に、日本や本県の意見や提案を行うこと等より、当該地域の発展に乗り遅れることのないようにする必要性を感じた。

今回の訪問では、「友好交流に関する覚書」に調印してから18年目を迎えた吉林省を中心に調査を行った。

国家間には時として様々な障壁が生じることがあるが、今後の両国・両地域のさらなる発展のためには、これまで築き上げた地域間の人的繋がりを活かしながら、交流を発展・深化させていく必要があると考える。

日頃から、地方政府間相互の信頼関係を積み重ねていくことが、両国間の障壁を乗り越え、交流を継続させる原動力として欠かせないものであることを今回の訪問を通して改めて感じることができた。

また、今後の北東アジア地域の情勢を見極める必要はあるが、図們江地域開発が進展した場合に備え、環日本海地域における本県の地理的優位性を活かしながら、この地域の開発にも積極的に関与するなどにより、国内他地域に先んじて、先鞭をつけることも意義があると考えている。

今後とも、経済分野のみならず、青少年、文化、環境などの各分野における交流の促進を図るとともに、県議会としてもこの地域を更に精力的に調査を行ない、今後の県政の発展に努めていく必要があると改めて認識することができ、大変有意義な調査であった。

5 日程表

月日	主な日程		宿泊
8月31日 (金)	5:36 6:39 12:50 14:40 17:00 18:30	米子駅発 鳥取駅発 中部国際空港→長春空港 (OZ692) 長春空港→長春市内 吉林省人民代表大会表敬 (1-1) 吉林省人民代表大会主催歓迎夕食会	長春市泊
9月1日 (土)	9:00 14:50 16:00 17:00	長春市内調査【2-1】 長春空港→延吉空港 (OZ6641) 石田商事現地法人アンテナショップ調査 (借上バス) (2-2) 神楽拉麵屋にて調査及び夕食 (2-2)	琿春市泊
9月2日 (日)	8:30 14:00 16:00 17:50 21:30	中国ロシア国境、中国北朝鮮国境視察 (借上バス) (3-1) 昼食 延吉・図們江地区投資貿易商談会 (3-2) 延辺朝鮮族自治州政府外事弁公室主任表敬 (3-3) 延吉空港→北京空港 (CA1616) 北京市内着 (借上バス)	北京市泊
9月3日 (月)	9:00 10:00 13:45 19:00	自治体国際化協会北京事務所調査 (借上バス) (4-1) 国連開発計画署図們江地域開発事務所調査 (借上バス) (4-2) 北京空港→仁川空港 (CA0125) ソウル市内着	ソウル市泊
9月4日 (火)	9:00 12:30 15:00 ~17:00	自治体国際化協会ソウル事務所調査 (5-1) 仁川空港発→米子鬼太郎空港着 (OZ164) 米子空港着→西部総合事務所着 鳥取着	



中国・北朝鮮国境 (圈河) から北朝鮮側を望む



国連開発計画署図們江地域開発事務所にて

6 訪問先の概要

【平成24年8月31日（金）】

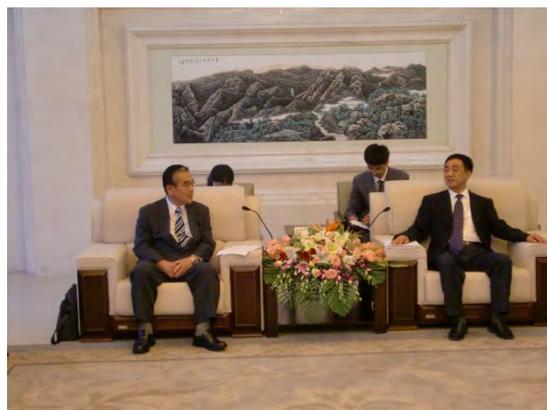
（1-1）吉林省人民代表大会（吉林省長春市）

〔応対者〕 吉林省人民代表大会 李洪剛副秘書長、韓勝利主任委員、張樹友副主任ほか

- ・吉林省人民代表大会を訪問し、両地域代表による挨拶、概要説明の後、意見交換を行った。
- ・国家間では、様々な外交問題なども生じることはあるが、両省県の交流を更に深めながら友好関係を強めていくこと、地域間交流として今後も両省県の関係を大切にしていきたいという意見で一致した。



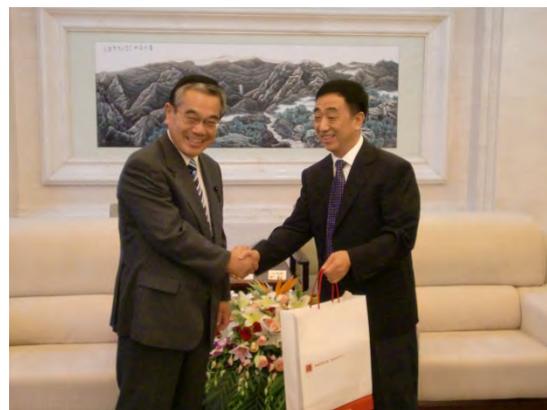
李洪剛副秘書長



李洪剛副秘書長と会談する齊木団長



会談の様子



会談の様子

【平成24年9月1日（土）】

（2-1）長春市内市場調査（ウォルマート長春重慶路分店、北方市場）

〔応対者〕 吉林省国際経済合作交流中心 王志文 主任

（ウォルマート）

- ・長春市の繁華街である重慶路沿いにあり、近隣にデパートの「卓展国際購物中心」や他の商業施設やシャングリ・ラホテルなどの宿泊施設が集中しており人通りが多く、開店直後だったが多くの買い物客で賑わっていた。
- ・各種商品の品揃えが豊富で、市民の嗜好が多岐に渡っていることが伺えた。大型店舗らしく店内には、大型カートが備え付けてあり、生活用品一式をまとめて購入する方も見られた。
- ・一度に数百円の買い物をする客もみられ、市民の購買力の高さを伺うことができた。



ウォルマート周辺（重慶路）



ウォルマート入口（重慶路）



量り売りされる穀物



豊富な品揃えの冷凍食品



生鮮品も豊富に販売されている



酒類の品揃えも多い

(北方市場)

- ・長春市を流れる伊通河近くにある市場で、布製品や生地 of 服飾品を多く扱っている。生地を買い縫製を依頼する「オーダーメイド」が可能とのことだが、スーパーの定価販売ではなく、通常、値段交渉をして商品を購入するとのことだった。
- ・カーテンや住居の内装品、壁紙も多数取り揃えられていた。中国では住居を購入する場合には、まず建物のみを購入し、購入者が自ら内装工事を行うとのことが多いようで、長春市内にあるこのような市場で必要資材を買い揃えるとのことだった。
- ・北方市場周辺は、数年前までは空き地も目立っていたようだが、近年開発が進み、周辺道路では、各所で交通渋滞が各所で発生していた。



北方市場入口



市場の内部



市場の内部



市場の内部

(市場の内部は、生地等の製品が所狭しと並んでいる。)



市内の道路の混雑状況



調査終了後、王志文主任と記念撮影

(2-2) 石田商事株式会社現地アンテナショップ、神楽拉麵屋 (延吉市)

〔対応者〕 石田商事株式会社 美濃海外事業部課長、孫経理補佐
延邊大山商貿有限公司 金弼総経理

【主な説明内容】

- ・石田商事 (株) は、一昨年9月、延吉市内のデパート「新時代百貨店」内に食品関連企業としてアンテナショップをオープンし、現地での業務拡張を図るため昨年2月に市内新興街に延邊大山商貿有限公司を設立された。しかし、東日本大震災以降、日本からの商品の入荷が出来ない状態が続き、アンテナショップの閉鎖を余儀なくされたが、延邊大山商貿有限公司の事務所を改装され再オープンされた。また本年1月には、島根県に本社を持ち、

山陰各地に店舗を構える「拉麺屋神楽」の中国店舗「神楽拉麺屋」をオープンされた。

- ・主な利用客は、日系企業に勤務している日本人（数十人）、延辺大学に留学している日本人学生、以前日本に住んだ、もしくは留学経験のある中国人など。日本食の安全・安心かつ高品質であるという評判が口コミで広まってきており、リピーターが増えてきているとのことで、今後、随時食材を増やし、山陰産の食材も揃えていきたいとのこと。
- ・近隣に、金総経理の親族が経営するカフェバー「吉川茶座」があり、日本式コーヒーが提供され、店内には、「Sanin Plaza in CHINA」の商品が展示・紹介されていた。
- ・カフェバーで使用する製品は主に鳥取県の澤井珈琲のものとのことだが、ロットが少ないため郵便を利用して輸入しているとのこと。
- ・商談会の品物をDBSクルーズフェリーを使いウラジオストク～中国黒龍江省綏芬河経由で輸入した際、食品輸入の前例がなく税関で手間取ったとのこと。処理方法が分からないために処理が後回しにされ、さらに時間を要したとのこと。今後事例が多くなれば税関処理も早くなると思われる。現段階では、ウラジオストクから琿春経由で延吉に荷物を運び延吉で検疫するほうが、石田商事としては動きやすいとのこと。
- ・ウラジオストクルートはコストが高く、税関も難しい。ロシア内ではロシアの輸送会社しか使えず、中国の安い輸送会社はシャットアウトされている。大連港利用はコストが一番安い。アジアナ航空の米子便はカーゴ荷物の扱いができず、小ロットなら可能なようだが大量の貨物は他のルートを利用するしかない。ロシアと中国の通関時間やコストが下がれば、DBSクルーズフェリーの利用の可能性もあるだろう。
- ・ロシア経由で物流を考えるならウラジオストク港よりザルビノ港経由が良いと思われる。また中国東北地方、特に延吉周辺であればロシアの港湾を利用するより、北朝鮮の羅津港を利用したほうが、人間のつながりがあり便利と思われる。



延邊大山商貿有限公司の外観



延邊大山商貿有限公司の売り場



吉川茶座の概観



吉川茶座の内部



神楽拉麵屋の外観



現地で日本と同じラーメンが味わえる

【平成24年9月2日（日）】

(3-1) 琿春市 中国・ロシア国境（長嶺子）、中国・北朝鮮国境（圈河）

〔応対者〕 吉林省延辺朝鮮族自治州琿春市外事弁公室 楊氏他

- ・調査当日が日曜日であり、人民解放軍兵士が警備するのみで、通関業務は行われていなかった。特に延辺朝鮮族自治州の60周年式典等のイベント期間中、秋の中国共産党大会に向けて警備が厳しくなっているとのこと。ロシア国境の長嶺子では、翌日の通関待ちのトラックが5～6台並んでおり、運転士は近くの宿泊施設で待機しているとのことであった。
- ・平日は、商用や観光目的のロシア人の往来が頻繁にあり、たとえばロシア国境の長嶺子であれば、700～1,000人/日ぐらいの往来があるとのこと。
- ・国境をはさんで相互の国の通関施設があり、越境者は両方で手続きをとるとのこと。
- ・両国境とも市内から国境までは、片側1車線ではあるが、道路が舗装されており、ロシア国境の長嶺子付近まで鉄道も敷設されているのが確認できた。



琿春市内の様子



琿春市内の様子



ロシア側国境に向けて伸びる鉄道



ロシア国境前に設置されていた看板
(地図上には境港の文字が見られる)



北朝鮮国境へ続く道路（コンクリート舗装）



北朝鮮国境にかかる橋
(橋上には橋を渡る人々がいる)

(3-2) 延吉・図們江地区国際投資貿易商談会（延吉市）

〔応対者〕 石田商事株式会社 石田康雄代表取締役、美濃海外事業部課長
延邊大山商貿有限公司 金弼総経理、孫総経理補佐

- ・会場内において石田商事の出展ブース、延邊大山商貿有限公司の出展ブースをはじめ、他の県内・外企業のブースを訪問し、来状況・出展品などを確認した。
- ・県内の企業も数社出展しており、出展企業数では他県に劣らない状況だった。日本からは特に日本海側の自治体の企業の出展が多かった。



会場入口（式典会場）



石田商事ブース前



会場の様子



県内企業のブース

（3-3）延辺朝鮮族自治州外事弁公室 許主任表敬

〔応対者〕 同外事弁公室 許主任 他

【主な懇談内容】

- ・許主任から前夜、延辺州長と鳥取市長が友好交流の覚書を交わしたことの紹介があり、このような交流はお互いに有意義であり、今回州長は公務のため同席できないが、今後、さらに交流を促進し、お互い努力していきたいとの挨拶があった。
- ・延辺朝鮮族自治州とウラジオストクの交流は10年来で去年はウラジオストクと正式に姉妹関係を締結している。また北朝鮮の羅津とも友好交流しており、将来はこの地域の発展の当事者になる見込みであること、この地域の発展の潜在力は高いと考えられること。近年、特に羅津の交流が盛んになっているとのことなどについて紹介があった。
- ・10年前程前は、観光客はさほど多くなかったが、近年、ロシアとの交流が盛んであり、特に正月はウラジオストクからの客でホテルがいっぱいになる。中国はロシアに比べ治安が良く、物価も安いいため、過ごし易いようだ。退職後、こちらで家を買って退職金を使って過ごす人も増えている。
- ・延辺の昨年GDP650億人民元、112億元の財政収入17.2%の成長率。琿春では6～7年前は2億円の財政収入しかなかったが、去年は14億元。琿春の開発区ではさまざまなプロジェクトの投資があるが、数年で回収できる成長率。延吉～琿春間的高速道路も整備されており、建設中の高速鉄道も2014年には完成見込み。



知事親書を許主任へ



懇談の様子



懇談の様子



会談の様子

【平成24年9月3日（月）】

（4-1）自治体国際化協会 北京事務所

〔対応者〕 田中所長 竹中所長補佐 高調査研究員

- ・ クレア北京事務所の概要説明を受け、連合開発計画署図們江区域開発事務局へ移動。



説明の様子



終了後、田中所長と記念撮影

（4-2）連合開発計画署 図們江区域開発事務局

〔対応者〕 崔主任、朱高級プロジェクト官吏、張プロジェクト經理、魯顧問

【主な説明内容】

- ・ 日本はGTIの正式メンバーではなくオブザーバーメンバーだが、鳥取県はGTIのため

に種々協力をいただいている。日本政府や地方政府もさらに協力されれば益々G T I 発展のために貢献される。日本政府の協力があつたからこそ、いろいろなプロジェクトが大きく進んだと認識している。

- G T I では交通インフラ整備に注力している。昨年から図們江地域の物流、交通研究プロジェクトを開始し、ロシアや中国、モンゴル、韓国、日本（E R I N A）などの専門家が共同で調査研究を実施している。例えばDB Sクルーズフェリー利用による物流貨物の内容やコスト、メリット・デメリットなど。環日本海地域は、潜在力はあると分析しており、よい調査結果が出ているように聞いており、今後、その結果を報告する予定である。
- 物流量、インフラ未整備、通関、国家間の体制の違いの問題があると感じている。来年は特に重点的に陸路と航路のためにどういふ政策を打ち出していくかを検討しており、DB Sクルーズフェリー航路も研究対象の一つである。DB Sクルーズフェリーは、ウラジオストクまで航路がつながっているが、これをザルビノも経由できる航路にできないかと検討課題になっている。
- 各国とも今、国境までの道路や設備等のインフラに力を入れている。例えば、ザルビノ港では、現段階ではインフラの不足が否めないが、海に面しており地理的な潜在力があるため、将来的には発展の可能性があると考えている。
- 日本の計画への正式参加が北東アジア地域の経済発展に大きく寄与できると考える。ロシア、中国、韓国、モンゴルからも正式メンバーへという要望もある。
- 日本の中央政府はもっと地方政府にG T I に関する権限を付与するべきだと思っている。
- 境港航路は重要だと考えている。北東アジア地域としても境港の物流の玄関口としての重要性も感じている。
- 中央政府間の協議は時間がかかるので、今は地方政府間で協議する委員会を立ち上げている。オブザーバーとして日本が参加することも可能だと思っている。日本からE R I N A が参加しているが、日本政府の代表ではなく研究機関として招待している。
- 今年、G T I の地方政府委員会が9月に実務者会議、正式会議は11月に長春で開催される。10月にウラジオストクでG T I の副部長級のレベルの会議があり。具体的な政策や課題の検討を行う予定である。昨年、江原道でこの会議を行った際に、地方政府の関わりが必要ということになり、地方政府委員会が設置され、次回開催地が長春でなつた。



左から朱氏 崔主任 魯氏 張氏



説明の様子



終了後、記念撮影



終了後懇、崔主任、朱氏と記念撮影

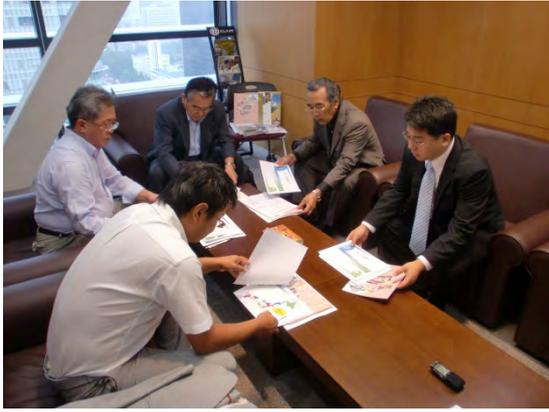
【平成24年9月4日（火）】

（5-1）自治体国際化協会 ソウル事務所

〔対応者〕〔対応者〕 安本所長 上田所長補佐

【主な説明内容】

- ・最近の韓国内情勢は、12月19日大統領選挙、来年2月就任の予定。出生率は、過去最低であり、海外からの移民の受け入れが積極化している。2007年頃から法整備が進み、語学研修や医療サービスなど、受け入れがしやすくなっている。
- ・日本との交流状況は、韓国への直行航空便は現在26都道府県に就航している。日本の殆どの地方に直行便がある状況。便利な反面、地域間競争が激しい。これに比べ、船舶は競争相手が少ない。航路で現在運行中のものは5つしかない。釜山以外は境港のみである。
- ・過去に行ったことのある都道府県と行きたい都道府県のアンケート結果では、鳥取県は、行ったことあるのは21位。行きたいところでは8位であった。行きたい都道府県では、特定の都会やリゾート地に集中している中で、その他の地域で上位にある数県のうちのひとつが鳥取県であり、鳥取県の名前が浸透していることが伺える。これにはドラマのアテナのロケ地として鳥取県が取り上げられたことも大きく影響しているようで、プロモーションをかけているところがそのまま成果につながっているようである。
- ・鳥取県は、鳥取と鳥取砂丘のように観光地と県名が一致しており、有利なようだ。
- ・鳥取に旅行したことのある人の反応はいい内容が多かった。ただし、利用した経路はDBSなどの格安キャンペーンが多いようだ。これらは収入には直結しないが知名度向上には大きく寄与していると考えられる。
- ・観光PRをして、一番反応がよいのは、温泉やスポーツツーリズムもあるが、やはり漫画、特に名探偵コナンへの反応が高い。
- ・韓国内の交通インフラは、東海からソウル間は高速道路利用が便利である。鉄道は乗り継ぎの関係でさほど便利ではなく、物流にも活用されにくい。ただし2018年の冬季オリンピックまでに高速鉄道が充実される見込みであり、これが我々にとっては朗報である。
- ・竹島問題は、新聞報道はセンセーショナルな内容が多いが、実際に暮らしているとその影響は、ほぼ感じない。ただし、日本側からの訪問予定のキャンセルなどが始まっておりその影響が今後、気になるところである。



安本所長より説明



調査の様子



調査の様子



調査の様子